

# 「神の選びと頑なな者!!」

ローマ11:1-10

## ■ 神の選びとは

神の恵みと言い換えることもできます。聖書の大原則は恵みによる救いです。行いによるものではありません。恵みを受けた人はどのような人かという、頑なではない人です。

## ■ 人が頑なになった時

先日戦争のドキュメントが放送されていました。人はたとえ上官に命令されても人を殺すことは心の中で多くの痛みを感じるのだそうです。何故なら人間は秩序（人は殺してはいけないこと）を知っているからです。してはいけないことだと分かっているのに、誰かの権力によって脅され強制された時、大きなストレスとなるのです。私たちは万物の霊長類であって、物事を支配し管理するように造られていますから本来こうあるべきだと潜在的に知っています。しかし人が頑なになった時、秩序とルールを飛び越えます。聖書にも『主が彼の心を頑なにされた』と出てきますが、神様が頑なにされたのではなく、人が頑なになることを赦されたのです。頑なになるというのはその人の意思だからです。人間は間違っていると分かっているのに「もう決めたので」と言ってしまうことがよくあります。違うと分かっているのに人は決めると秩序とルールを飛び越えるのです。

## ■ 柔和と穏健

・柔和…苦しみや苦悩を御言葉による忍耐で乗り越えた時与えられる  
・穏健…忍耐による品性に与えられる神の知恵による行動  
柔和とは、自分の心や相手の心の頑なさに対して柔らかくする事ができます。テレビを観ると私たちを紛らわす沢山の情報が出てきて、そうなんだ…とレッテルを貼ってしまいます。柔和と穏健とは、レッテルや情報に基づいて判断するのではなく、私たちの心内にある神の言葉と知恵に基づいて判断し、その中で最善を行う事です。柔和や穏健でいられない出来事は沢山あります。心の葛藤と戦い、自分の行動がいつも柔和であり穏健であるかを考える事が大切です。

## ■ 褒めちぎられた犬。頑なにならない為に

褒めちぎられ育った犬は自分が嫌な事をされると怒ります。私たちは子どもに対して同じように教育していないでしょうか。子どもが嫌ならやらせない、しかし大きくなった時にその子はやっていたらどうでしょうか。家庭では許されても、社会では「話し合えない人」と判断され周りとうまくいきません。そうなる事が分かっているのに、現実と教育とのギャップがあるという事です。教育とは自分（親）が居なくなった時にその子が正しく振る舞えるかどうかです。

## ■ 教え

パウロは、アブラハムの子孫でありベニヤミン族の出身で神に愛された部族で教育を受けてきた事を伝えています。自分が何人で何家の者か、家の教えなど今は分からなくなってきました。『主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。』（詩篇 1篇 2-3）私たちが間違っただけで、この主の教えが乗り越えさせる力です。当時、教えは伝承律法で、人がどう生きるべきか父親が毎週教えていました。私たちが毎週日曜それをやっていますが、私たちの骨材になる事を神様から受け取ることが大切なのです。

## ■ 選ばれた者（レムナント 7,000 人）

恵みの選びによって残された者、それはあなたです。情報が蔓延る中でこの世の中の色々なルール化が起きていますが、正しいことは何でしょうか。『もし恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。もしそうでなかったなら、恵みが恵みでなくなります』（ローマ 11:6-7）これが答えです。教育の大切さというのは、頑なな者に潜む危険な状態をどれだけ教える事ができるかです。まず自分の心の中に頑なさがなく聞いてみてください。頑なさは人生を狂わせてしまいます。聖書は愚かなものでなく『蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。』（マタイ 10:16）と教えています。

## ■ オバデヤ、エリヤ、アハブ、イゼベル、民

第一列王紀 18 章 .19 章にアハブ王という聖書の中で最も悪王が出てきます。アハブ王は頑なでした。原因は妻のイゼベルでした。イゼベルは神様を信じる者が大嫌いでした。本当の神ではなくパアルのアシュラの像を作りそれを礼拝させる沢山の宗教家を作ってアハブ王

が正しい決断をしようとしても全部壊しました。預言者エリヤはアハブ王に正しい事をずっと伝えてきましたが、その都度イゼベルが邪魔し預言者たちを殺しました。長官オバデヤは宮廷を守る大事な大臣でアハブの直属の部下であったにも関わらず、正しいユダヤ人の預言者 100 人を 50 人ずつこっそり置いて洞窟で生かしました。彼には神様に聴こうとする素直な心があったのです。イゼベルは最後までエリヤを憎しみ、感情に基づいて判断しました。私たちは、良心に基づく神の知恵で決断が必要なのです。

・オバデヤ（いざとなったら、自分の正しさを主張し怒ってしまう）  
・エリヤ（リーダーであっても悲劇が続くと殺してくれと欲してしまうような感情を持っている）  
・アハブ（神の声ではなく、人の声の方に耳を傾けてしまう）  
・イゼベル（憎んでいると、間違っただとわかりながら間違っただけを繰り返してしまう）  
・○○民（感謝をすぐに忘れ文句ばかり言い、奇跡があればすぐに神様！と言い、それをすぐに忘れた文句を言う）  
私たちの心にはそれぞれ狡さがあります。自分には狡さがあると理解するからこそ戻ろうとする事ができるのです。

## ■ 恵みとは

受けるはずじゃない者が受けるものです。素直な心を持った人が恵みを受けられる入り口になります。すなわち聖書は、私たちが罪人だと知る事と赦されるはずのない人が赦された事を知る事だと言っています。

①自分が罪人であると理解した瞬間、恵みは訪れる。  
ダビデは何故神に愛されたのでしょうか？自分が罪人だと認めたからです。認めることと「こんな失敗をした私はダメだ」と思うことは違います。自分がダメだ→頑な（認めない）→恵みから逸れてしまいます。自分が悪かったと理解した時に、神様にごめんなさいと素直になれる事ができれば、神様は私たちが変わる方法も教えてくれて、その罪を繰り返さない方法を教えてくれた上で赦してくれるのです。これが恵みであり、人生は大きく変わっていきます。そこに人との間に赦し合うという神様が与えた恵みが訪れるのです。

②恵みを受けた者は素直に神の赦しと神の知恵を願える。  
恵みを受けた者は次に「こんな失敗をした私はどうすれば良いですか。」と願えます。これが恵みを受け、恵みに生きる、恵みの中で留まる人です。

## ■ 教育とは

①主の教えを伝える。（詩篇 1）  
私たちは、神様の前にも人の前にも素直に悔い改める教育をしなくてはいけません。誰かが悪かったからこうなったと理由を見つける教育は聖書の原則と反対です。聖書は主の教えを教えるよう何度も伝えています。

②誰の言葉を聴くかを教える。  
私たちの耳には沢山の声がかかっています。責任も取らず人生を狂わす人の言葉を聴いてはいけません。羊飼であるイエスキリストはあなたの為にいのちを捨てます。ですからあなたにとっていのちをかける人の声以外聴く必要はないのです。神様が私たちにせよと言われる事は、難しく感じる事もあります。それでも神が正義である事を忘れず信じるよう聖書は言っています。そこに目を向けられるのが恵みなのです。

## ■ 最後に

今私たちは知恵を求め、その恵みの中で正しい判断を行っているでしょうか。恵みとは、素直な人が受ける事が出来るものです。頑なでないか、自分の心の中に権利が生じてないかよく自分の心を見極めましょう。人の心に頑なさをもたらすのは誰かのせいにする事です。教育がそのようなになっています。しかし私たちは神様から、権利を行使する社会から義務を果たす事を教えなさいと言われていきます。大切なのは自分が間違っている事を素直に認めて神の前に悔い改める事です。

私たちが自分の中に間違っただけの価値観を受け取る時は、傷ついた時です。それは被害者になるという価値観です。傷ついた事は本当に悲しい事です。だからこそイエスキリストが「あなたの痛みやあなたが負ったものを私が背負う」と十字架にかかられました。そして、人生を作り替える事ができる道を与えました。間違っただけのものに従わず残されていたレムナントの 7 千人は、主の教えに従って歩んだ民です。この 7 千人のように、神様の教えに歩み良い生き様と価値観を継承していけるよう、頑なさを捨ていつも素直な心で神様の声を聴いていきましょう。

（要約者：西寄 芳栄 伝導師）

（2025年2月2日）